

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに人材育成その他の教育研究上の目的を設定していますか。また、その内容は適切ですか。	A
		(2)	大学の理念・目的と学部・研究科の目的に関連性がありますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 教養部カリキュラムポリシーにおいて、人材の養成・教育研究上の目的を設定している。特に教育内容をどのように具体的に実践するかを明記している。多岐にわたる教養部教育にとって適切なものであり、特に「多様化」している大学教育にとって資するところが極めて大きいものとなっている。				
(2) 本学の理念、すなわち「仏教精神を基とした「行学一体」による人格形成、ならびに、「報恩感謝」の生活のできる社会人を育成し、広く社会に寄与し、人類の福祉と文化の発展に貢献すること」を実現するためには多岐にわたる教育を基盤とすることが必要である。教養部教育は様々な分野にわたる教育を目指しており、教養部の「人材の養成・教育研究上の目的」は、この本学の理念実現に大いに関連している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
1-1教養 愛知学院大学ホームページ「教養部のポリシー」 http://kyouyou.agu.ac.jp/policy/index.html				
1-2教養 各学部の履修要項(刊行物)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示していますか。	A
		(2)	教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等により、大学の理念・目的、学部・研究科の目的等が周知及び公表されていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 教養部の人材の養成・教育研究上の目的を愛知学院大学ホームページの「教養部のポリシー」にて明示している。				
(2) 教養部の人材の養成・教育研究上の目的を愛知学院大学ホームページの「教養部のポリシー」に掲載し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表されている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
1-1教養 愛知学院大学ホームページ「教養部のポリシー」 http://kyouyou.agu.ac.jp/policy/index.html				
1-2教養 各学部の履修要項(刊行物)				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	教養セミナーの授業内容の独自性、全国でも珍しい教養教育に特化した「教養部」の存在がある。この特徴を生かして、学部横断的な選択講義科目、さらに教養を発展させるための主題系科目などを開講している。
	キャリアセンターとの共同で「教養共通テスト」を作成し、実施している。このテストには教養教育で取り上げる諸分野学ぶ事項とその目的、あるいは学ぶ意義づけを問題文の中にメッセージとして記し、学生の教養への喚起と、自主的な学びを促進している。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
1-3教養 愛知学院大学教養部ホームページ http://kyouyou.agu.ac.jp/
1-4教養 『教養セミナーハンドブック 大学で学ぶために』(冊子)
1-5教養 『教養セミナーハンドブック 日本語表現法』(冊子)
1-6教養 『宗教と人間 真の生き方を求めて(第二版)』(「宗教学Ⅰ・Ⅱ」の教科書)(刊行物)
1-7教養 令和3年度7月教養部会資料および議事要項
1-8教養 令和5年度第1回教養共通テスト(https://forms.office.com/r/Gc4Gzfebn8)、第2回教養共通テスト(https://forms.office.com/r/4CEStskpCF)、

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	『教養セミナーハンドブック 大学で学ぶために』が現在の学生を取り巻く状況に合致しない点がある。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
	『大学で学ぶために』改訂を作成し、現在印刷中である。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
1-10『大学で学ぶために』改訂版原稿PDF

5. 「基準1」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。	(1)	学部・研究科その他の組織における定期的な点検・評価及び点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを計画的に実施していますか。 ※各学部・研究科の自己点検・自己評価委員会の年2回以上の開催及び委員会での取り組み内容について具体的に記載してください。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 毎年度シラバス作成にあたり、教養部開講の全授業について、「シラバスチェックのお願い」(根拠資料2-1教養)に基づき相互チェックを実施している。原則として、非常勤講師については当該教室の専任教員が、専任教員については同教室内もしくは同系列内の他の専任教員が、「教養教育科目カリキュラム・マップ」(根拠資料2-2教養)と照合しつつチェックを行い、必要に応じて修正を促す。各チェック担当者はチェック完了後教務主任室に完了報告をする。教務主任室がチェックに漏れがないかwebキャンパス上(根拠資料2-3)にて最終確認を行う。 ・教養部では、「学修状況実態把握に関するアンケート」の結果を用いて、学修時間確保のための改善策を審議した(根拠資料2-4)。 ・教養部では、2021年度からキャリアセンターとの共同で「教養共通テスト」を作成し、実施している。これにより、教養科目を学ぶ意義の確認と動機の喚起、自主的な学習を促している(根拠資料2-5教養)。 ・教養部では、部内組織である教養教育研究会が毎年度発行する『愛知学院大学教養部紀要』の各巻最終号末尾に、教養部の全専任教員について、前年1年分の研究業績一覧を掲載している。なお、当該紀要は2011年度版の第58巻より、教養部のホームページにて全文閲覧可能である(根拠資料2-6教養)。 ・教養部では、2021年7月および9月教養部会において「教養部中期目標」の策定を審議し、教育と研究両面における今後6年の具体的目標を定めると同時に、その目標達成に向けた実施体制とチェック体制を確認した(根拠資料2-7教養、2-8教養)。 ・教養部では、部で定めたアドミッション・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの達成状況を毎年度評価するために、学部・学科と科目の両レベルにおいてアセスメント・プラン(根拠資料2-9教養)およびアセスメント・チェックリスト(根拠資料2-10教養)を設定している。 ・以上の各点に関する点検結果を踏まえ、総合的な視点から部全体の問題点を把握し、その改善に向けた部としての取り組みを立案するための内部質保証体制として、教養部自己点検・自己評価委員会を設置している(根拠資料2-11教養)。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
2-1教養 シラバスチェックのお願い (令和6年1月30日webキャンパスにて配信 https://wcs.agu.ac.jp/campus/wbasmsgsr.do?buttonName=showMgsrDetail&selectDetailIndex=122)				
2-2教養 教養部カリキュラム・マップ(各文系学部履修要項に記載)				
2-3教養 webキャンパスシラバス公開管理(https://demo12.gakuen-cr.com/uprx/)				
2-4教養 令和5年度3月教養部教務委員会資料及び議事要項				
2-5教養 令和5年度教養共通テスト(第1回 https://forms.office.com/r/Gc4Gzfebn8 第2回 https://forms.office.com/r/4CEStskpCF)				
2-6教養 『愛知学院大学教養部紀要』第71巻第3号				
2-7教養 令和2年度7月教養部会資料および議事要項				
2-8教養 令和2年度9月教養部会資料および議事要項				
2-9教養 平成30年度第10回教務委員会資料				
2-10教養 平成31年度第1回教務委員会資料				
2-11教養 令和3年度3月教養部会議事要項及び教養部自己点検・自己評価委員会内規				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
	2021年度からキャリアセンターとの共同で「教養共通テスト」を作成し、実施している。このテストには教養教育で取り上げる諸分野学ぶ事項とその目的、あるいは学ぶ意義づけを問題文の中にメッセージとして記し、学生の教養への喚起と、自主的な学びを促進している(根拠資料2-5教養)。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
2-5教養 令和5年度教養共通テスト(第1回 https://forms.office.com/r/Gc4Gzfebn8 第2回 https://forms.office.com/r/4CEStskpCF)	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既の実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準2」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	(1)	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針を適切に設定し公表していますか。	
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 教養部には該当せず				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1)	下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表をしていますか。 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	
		(2)	教育課程の編成・実施方針と学位授与方針には適切な関連性がありますか。	
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 教養部には該当せず				
(2) 教養部には該当せず				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性はとれていますか。	
		(2)	教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮、授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切ですか。	A
		(3)	個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針を踏まえていますか。	A
		(4)	各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 ＜学士課程＞ 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 ＜修士課程、博士課程＞ コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(5)	学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)教養部に該当せず				
(2)教室ごとに、教養部のカリキュラムポリシーに基づいて授業科目を位置づけている。				
(3)個々の教員が教養部のカリキュラムポリシーに基づいて授業内容を設定している。				
(4)文学部・心理学部・商学部・経営学部・経済学部・法学部の1年次に、「教養セミナーⅠ・Ⅱ」を開講し、授業担当者がアドバイザーとして指導を行っている。上記学部に加えて、歯学部と薬学部の1年次学生に対しても、教養部の教員がアドバイザーとなり、きめ細かい初年次教育を行っている。				
(5)文学部・心理学部・商学部・経営学部・経済学部・法学部の1年次に、「教養セミナーⅠ・Ⅱ」を開講し、授業担当者がアドバイザーとして指導を行っている。上記学部に加えて、歯学部と薬学部の1年次学生に対しても、教養部の教員がアドバイザーとなり、きめ細かい初年次教育を行っている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
4-1教養 愛知学院大学教養部ホームページ「教養部のポリシー」 http://kyouyou.agu.ac.jp/policy/index.html				
4-2教養 愛知学院大学ホームページ「教育情報の公表」 https://www.agu.ac.jp/guide/data/education.html				
4-3教養 アドバイザー制度(商学部履修要項抜粋)				
4-4教養 愛知学院大学教養部ホームページ「教養セミナーとアドバイザー制度」 http://kyouyou.agu.ac.jp/seminar/index.html				
4-5教養 『教養セミナーハンドブック 大学で学ぶために』(PDF)				
4-6教養 『教養セミナーハンドブック 日本語表現法』(PDF)				
※各学部と重複すると考えられる資料(履修要項等の抜粋)は省略した。				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)	単位の実質化を図るための措置(授業時間外に必要な学習の促進、学士課程においては履修登録単位数の上限設定等)を講じていますか。	A
		(2)	シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)は適切ですか。 また、授業内容とシラバスとの整合性が確保されていますか。	A
		(3)	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法などの措置を講じていますか。 (教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保、グループ活動の活用等)	A
		(4)	各学位課程に応じてその他の措置を講じていますか。 ＜学士課程＞ ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数、適切な履修指導の実施 ＜修士課程、博士課程＞ ・研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)の明示とそれに基づく研究指導の実施	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 授業時間外に必要な学習時間と、履修登録単位数の上限を履修要項に明記し、また、入学時のガイダンスで学部教員・教養部教員・教務課職員が指導している。				
(2) 専任教員が相互にシラバスチェックを行っている。非常勤講師のシラバスは、専任教員がチェックしている。また、大学教学改革推進企画室からの要請に応じて、各教員がウェブ上の「研究業績プロ」に自己点検・評価を入力している。加えて、学生による授業アンケートで、学生からシラバスと授業内容の整合性についてチェックと評価を受けている。				
(3) 各教員が、学生の授業への主体的参加を促すための工夫をしている。一例として、「教養セミナーⅠ・Ⅱ」では、アクティブラーニングを取り入れている。また、歯学部・薬学部の学生には、必修科目として実習を実施している。				
(4) 英語、第二外国語、スポーツ科学の授業では、適切な学生数となるようにクラス分けを実施している。また、講義科目で多人数クラスが生じた場合には、クラスの分割や、開講学科の変更等の対応を行っている。適切な履修の指導については、入学時の新入生ガイダンスで、学部教員・教養部教員・教務課職員が実施している。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
4-7教養 愛知学院大学ホームページ「シラバス標準検索」 https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbsshjr.do				
4-8教養 シラバスチェックについてのお願い				
4-9教養 「研究業績プロ」ウェブサイト				
4-10教養 R5春学期教養部学生による授業アンケート集計表				
4-11教養 R5秋学期教養部学生による授業アンケート集計表				
4-12教養 2023年度英語クラス分け結果(文系)				
4-13教養 2023年度英語クラス分け結果(歯)				
4-14教養 2023年度英語クラス分け結果(薬)				
4-15教養 第二外国語クラス分け結果				
4-16教養 スポーツ科学(必修)受講者数資料				
4-17教養 令和5年度時間割編成上の注意点(R4年10月教養部教務委員・時間割担当者合同会議資料)				
4-18教養 令和5年度秋学期授業規模統計(R5年10月教養部会資料)				
4-19教養 令和5年度秋学期 選択科目受講者数 日進・名城公園キャンパス(R5年10月教養部会資料)				
※各学部と重複すると考えられる資料(履修要項等の抜粋)は省略した。				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)	単位制度の趣旨に基づく単位認定を行っていますか。 また、既修得単位の適切な認定を行っていますか。	A
		(2)	成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	A
		(3)	卒業・修了要件を明示していますか。	
		(4)	〈修士課程・博士課程〉 学位論文審査基準を明示し、公表していますか。	
		(5)	学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するために どのような措置を講じていますか。 学位授与に係る責任体制及び手続は明示されていますか。	
		(6)	適切に学位授与を行っていますか。	
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 単位制度の趣旨に基づく単位認定方法をシラバスに明記している。また、既修得単位については、教務主任2名が厳格な審査を実施している。 (2) 成績の評価基準を、シラバスに明記している。学生が評価に疑問を感じた場合には、教務課を通じて「成績評価に関する質問書」を、授業担当者へ送る制度がある。 (3) 教養部には該当せず。 (4) 教養部には該当せず。 (5) 教養部には該当せず。 (6) 教養部には該当せず。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
4-7教養 愛知学院大学ホームページ「シラバス標準検索」 https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbsshjr.do				
4-20教養 成績評価に関する質問書フォーマット				
※各学部と重複すると考えられる資料(履修要項等の抜粋)は省略した。				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)	各学位課程の分野の特性に応じて、学位授与方針に示した学習成果を測定するための多角的で適切な指標設定を行っていますか。 (特に専門的な職業との関連性が強いものにあつては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。)	B
		(2)	学習成果を把握及び評価するために適切な測定方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 教養部には該当せず。				
(2) 英語教室が主体となり、文学部・商学部・経営学部・経済学部・法学部・健康科学部・心理学部・歯学部・薬学部の1年次を対象に、「愛知学院大学英語力評価テスト(AGUTEA)」を学年初め及び学年末に実施し、英語授業の学習成果を測定している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
4-21教養 AGUTEA実施報告書				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑦	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 春学期・秋学期に「授業アンケート」を実施している。必修の英語科目については、英語教室の教員(専任・非常勤ともに)が、「愛知学院大学英語力評価テスト(AGUTEA)」の分析結果を共有し、授業に反映させている。また、2019年度からは、教養部自己点検・自己評価委員会において、点検・評価している。				
(2) 「授業アンケート」の結果を受けて、各教員が「今後の取組(改善策)」を入力している。また、拡大FD委員会や、FD委員会を開催し、組織的な改善・向上に向けた取り組みを実施している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
4-21教養 AGUTEA実施報告書				
4-22教養 R5年度教養部FD活動報告書				
4-10教養 R5春学期教養部学生による授業アンケート集計表				
4-11教養 R5秋学期教養部学生による授業アンケート集計表				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
⑤(1), (2)	既修得単位を認定するために教務主任2名が厳格な審査を実施している。成績の評価基準をシラバスで明記し、学生が評価に疑問を感じた場合には、教務課を通じて「成績評価に関する質問書」を授業担当者に送る制度がある。
⑦(1), (2)	教育内容や方法の適切性や問題点を共有するために拡大FD委員会やFD研究会を実施し学生への指導に還元できている。英語授業の学習成果を測定するために英語教室の教員(専任・非常勤ともに)が「愛知学院大学英語力評価テスト(AGUTEA)」の分析結果を共有し、授業に反映させている。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
4-21教養 AGUTEA実施報告書	
4-22教養 R5年度教養部FD活動報告書	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既にも実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準4」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	(1)	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定し、公表していますか。	A
		(2)	下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針を設定していますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 教養部は独自に学生を受け入れ、学位を授与することをしないが、教養教育を通して、社会に輩出したい人物像と、そのために必要な教育課程の編成方針を、固有のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーとして定め、それを踏まえて、教養部としてのアドミッション・ポリシーを独自に設定し、他の2つのポリシーとともに、教養部ホームページにて公開している。(根拠資料5-1教養)				
(2) 教養部のアドミッション・ポリシーに、建学の精神を踏まえた社会貢献への意欲、及び幅広い知的的好奇心と探究心、この2つを学生に求めると明記されている。(根拠資料5-1教養)				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
5-1教養 教養部のポリシー http://kyouyou.agu.ac.jp/policy/index.html				

基準5. 学生の受け入れ

組織名

教養部

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	(1)	学生の受け入れ方針に基づき学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定していますか。	
		(2)	入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制を適切に整備していますか。	
		(3)	公正な入学者選抜を実施していますか。	
		(4)	入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) (2) (3) (4)				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				

基準5. 学生の受け入れ

組織名

教養部

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1)	入学定員及び収容定員を適切に設定し、在籍学生数を管理していますか。 <学士課程> ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応 <修士課程、博士課程> ・収容定員に対する在籍学生数比率	
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)				
(2)				
〔根拠資料名〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既の実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準5」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的に基づき大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	(1)	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針(分野構成、各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等)を適切に明示していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 2019年度に、愛知学院大学の教員組織の編制方針を前提とした教養部独自の教員組織の編制方針を策定している。(資料6-1)				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
6-1教養 教養部 教員組織の編制方針				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)	大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数は適切ですか。	B
		(2)	学部・研究科等ごとの専任教員数を適切に維持するため、計画的に募集・採用・昇任等を実施していますか。	A
		(3)	教員組織の編制に関する方針に基づき、適切に教員組織を編制していますか。 ・教員組織の編制に関する方針と教員組織の整合性 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授、准教授、講師又は助教）の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置（国際性、男女比等も含む） ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	B
		(4)	学士課程における教養教育の運営体制は適切ですか。	S
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 2023年4月1日時点での専任教員数は55名（客員教授、特任教授、特任准教授を除く）である。2023年度春学期に開講された教養教育科目973コマに対して、専任教員が担当したのは394コマであり、専任率40％は昨年度春学期の49％から減少している。教授の割合は36％である。特に、2022年度には自己点検・自己評価委員会委員長より、教養部の専任教員の数不足している旨、改善事項として指摘された。そのため教養部では引き続き、大学執行部・理事会へ新規採用が可能となるよう働きかけを継続していく。（資料6-2） (2) 2023年度は1名の教授(法学)、2名の准教授(地理・英語)が退職した。大学執行部・理事会には継続して人事補充を働きかけ、現在のところ3名の新規採用を予定している。（資料6-3） (3) 第二外国語・人文社会系各教室を中心に、定年退職者の補充人事が行われないケースが多くなっており、専任教員が1名しかいない分野が増えてきている。担当するメインキャンパスが日進・名城公園の2つであり、更に一部の教員は楠元へも出講している現状と相まって、専任教員の負担は大きい。国際性に関しては、英語圏3名、中国1名、韓国1名の外国人教員がおり、語学教育と国際理解に関する授業に携わっている。しかしこの数年は英語教員退職者の補充が行われず、国際性が低下しつつある。女性教員の割合は約11％(6名)と全国平均より少ないため、改善の余地がある。2023年4月1日時点での年齢構成は60代20名、50代14名、40代13名、2-30代8名となっており、徐々に60代の比率が高まってきている。（資料6-2、6-4） (4) 本学では教養教育を専門に扱う教養部を設置している。教養部は初年次教育・幅広い教養教育の充実をはかるため、「教養セミナーⅠ・Ⅱ」をはじめ、人文系・社会系・自然系・外国語系・健康総合科学系の5系列および主題系科目を開講している。（資料6-5） その運営にあたっては教養部長を責任者とし、2名の教務主任が実務面での取りまとめを行い、3名の事務職員がそれをサポートする体制である。教務・FDに関しては教養部会で選出された教養部教務委員長・FD委員長を筆頭に、各教室の教務委員・FD委員から構成される教養部教務委員会・教養部FD委員会において議論を行い、最終的に教養部会の承認を得ることで、広い分野にまたがる教養教育が適切に行われるよう管理している。（資料6-6、6-7、6-8）				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
6-2教養 2023年度教養部会専任教員一覧				
6-3教養 2023年度教養部教授会議事項				
6-4教養 愛知学院大学教養部ホームページ「教員紹介」(http://kyouyou.agu.ac.jp/detail/introduction-1.html)				
6-5教養 愛知学院大学教養部ホームページ「教科の構成と内容」(http://kyouyou.agu.ac.jp/detail/index.html)				
6-6教養 2023年度教養部各種委員会委員一覧(2023年度4月教養部会資料)				
6-7教養 2023年度教養部会議事項				
6-8教養 2023年度教養部教務委員会議事項				

基準6. 教員・教員組織

組織名

教養部

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	(1)	教員の職位(教授、准教授、講師、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続を設定し、規程を整備していますか。	A
		(2)	規程に沿った教員の募集、採用、昇任等を実施していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)「教養部教員の新規採用に関する内規」と「教養部教員の昇任に関する内規」を設定している(資料6-9, 6-10)。新規採用にあたっては教養部長によって募集が行われ、教養部長が依頼した適切な委員によって選考が行われる。これによって選ばれた候補者は、教養部総務委員会の承認を得た後、教養部教授会において審査される。昇任にあたっては、各教室・系列の総務委員または教養部長によって出された提案を、教養部総務委員会の承認を得た後、教養部教授会において審査する。				
(2) 前述の内規を厳格に適用した人事を行っている。2023年度は昇任人事4件(教授1件、准教授3件)と採用人事3件(専任講師3件)の人事を行った(資料6-3)				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
6-9教養 教養部教員の新規採用に関する内規				
6-10教養 教養部教員の昇任に関する内規				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的に実施していますか。 ・教育改善以外に研究の活性化や社会貢献等の教員に求められる諸活動について資質向上を図る取り組みの実施 ※学部及び大学院について、それぞれの内容に特化したFD活動を行っているか、併せてご確認ください。	A
		(2)	教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価を行い、結果を活用していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 2023年度春学期は、授業アンケート結果をもとに各教員による個別での活動を行った。秋学期は「教養セミナーにおける共同授業の試み」をテーマとし、研究授業の公開、及び授業後の意見交換会を行った(資料6-11)。研究活動については、教養部教員を正会員とした教養教育研究会を組織し、『愛知学院大学教養部紀要』の刊行(原則年3回; 資料6-12, 6-13)、研究会等の開催を通じて研究情報の共有と相互理解を促進し、活性化を図っている。社会貢献については、各種講演会の学外開放、講師派遣、開放講座の開講の3つを中心に据え、教員の資質向上を図っている(資料6-14)。				
(2) 教養部教授会において教育活動・研究活動の評価と審査を行い、2年ごとに1名を国内研修に、毎年1名を在外研究に派遣して、研究活動への強い動機付けを行っている。また昇任人事においては、教育・研究・社会の3つの活動の全てを評価の対象としている(資料6-3)。また2021年度より全学の学生を対象に開始した「教養共通テスト」により、教員自身が何を教えるべきかの再確認を行い、テストの結果を評価することで授業内容の自己評価を行う体制ができている(資料6-15, 6-16)。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
6-11教養 2023年度全学FD活動報告書				
6-12教養 愛知学院大学教養部ホームページ「教養部紀要」(http://kyouyou.agu.ac.jp/achievements/index.html)				
6-13教養 愛知学院大学機関リポジトリ(https://agu.repo.nii.ac.jp/)				
6-14教養 愛知学院大学開放講座(https://www.agu.ac.jp/local/open/)				
6-15教養 令和3年度7月教養部会資料および議事要項				
6-16教養 令和5年度第2回教養共通テスト(https://forms.office.com/r/4CEStskpCF)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 毎学期当初に科目ごとの受講者数の分析を行い、各科目に適切に教員が配置されているかを教養部会において点検・評価している(資料6-17)。また各教室・系列もしくは教養部長からの提案があった場合にも、教養部総務委員会の承認を得た後、教養部教授会において点検・評価を行っている。(資料6-3)				
(2) 教養部教授会における点検・評価結果をもとに、補充人事や配置換え等の対応を取っている。(資料6-3)				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
6-17教養 2023年度選択科目受講者数等(2023年度5, 10月教養部会資料)				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
②(4)	全学の教養教育を学部横断的に担当する独立した組織として教養部を持ち、大学全体における教養教育の質を高いレベルで維持している(資料6-18)。また2021年度より全学の学生を対象に開始した「教養共通テスト」により、教員自身が何を教えるべきかの再確認を行い、テストの結果を評価することで授業内容の自己評価を行う体制ができています(資料6-15, 6-16)。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
6-18教養 愛知学院大学教養部ホームページ「教養部のポリシー」(http://kyouyou.agu.ac.jp/policy/index.html)	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
②(1)(3)	2022年度から、専任教員の不足が指摘されており、現状、適切な配置になっているとは言えない面を残している。また、人文系・社会系に1名のみの教室が増え、英語教室の外国人教師の減少が続き、各場面での負担が増大している。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
②(1)(3)	専任教員の数が不足しているため、適切な人事配置が可能になるように、引き続き大学執行部・理事会へ新規採用が可能となるよう働きかけを継続していく。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
6-2教養 2023年度教養部会専任教員一覧

5. 「基準6」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
B

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)	学外組織との適切な連携体制を構築していますか。地域交流、国際交流事業への参加に取り組んでいますか。	A
		(2)	社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	S
[現状] 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) (学外組織との連携) 地理学の教員が、たくさんの自治体の環境に関する委員会に委員として参加し、各種提言を行っている。(地域交流への参加) 日本語学の教員が、日進市・長久手市と本学国際交流センターの共催で行われるスピーチコンテストに参加し、同自治体関係者と交流している。(国際交流事業への参加) 語学系教員が、海外の提携大学で実施される語学研修に参加する学生を引率するなどしている。また、日本語学教員が、日本語教育センターと連携して、海外提携大学から来日する留学生の日本語教育や本学学生との交流に貢献している。				
(2) 英語学の教員、地理学の教員、生物学の教員、日本語学の教員をはじめとする、さまざまな分野の多くの教員が、年齢を問わない各種教育機関において、それぞれの研究分野に関わる授業や講演を行っている。また、新聞・放送などの各種メディアにおいて、専門領域を解説する記事を掲載したり、出演したりするとともに、本学主催の公開講座・開放講座や、自治体との連携講座などにおいて、学外の方々に多様な分野の授業・講演等を行っている。こうした多種多様な「社会連携・社会貢献に関する教育研究活動」が、長期間にわたり、数多く実施されていることは、多様な分野の教員が多数在籍している本学教養部の大きな特色の一つであり、教養部・教養課程を廃止した他の多くの大学には見られない本学の重要な特長の一つでもある。				
[根拠資料] 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
9-1教養 国土交通省・土岐川庄内川流域委員会委員(2022.7～) https://hoshikusa.jpn.org/profile.html#shakai ほか多数				
9-2教養 本学HP「国際交流センター」 https://cip.agu.ac.jp				
9-3教養 本学HP「日本語教育センター」 https://cjl.agu.ac.jp				
9-4教養 「AI時代の大学教育を考える」(静岡市:常葉大学大学院 国際言語文化研究科FDSD研修会 2024.2.14) ほか多数				
9-5教養 可児市立桜ヶ丘小学校 4年生総合「大森奥山湿地群を探索しよう！」2023.9.14 ほか多数				
9-6教養 Mammalian evolutionary morphology: from ecomorphology to development. 静岡県立掛川西高等学校 2015.3 ほか多数				
9-7教養 米原市立柏原中学校2年生対象「ことばの意味を見つめてみよう！―現代日本語学入門―」2023.12.15 ほか多数				
9-8教養 本学HP「地域・企業の方へ」 https://www.agu.ac.jp/local				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	B
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	B
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 海外語学研修参加者や、本学主催の公開講座・開放講座、自治体との連携講座などの参加者にアンケートを取り、点検・評価を行っているが、やや十分ではない面もある。				
(2) 海外語学研修参加者や、本学主催の公開講座・開放講座、自治体との連携講座などの参加者に対して実施したアンケート結果や、海外語学研修引率者の報告等を「社会連携・社会貢献」活動の改善に役立てているが、やや十分ではない面もある。				

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

9-9教養 国際交流センター資料等

9-10教養 エクステンションセンター資料等

9-11教養 教務課資料等

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
②の(2)	様々な分野の多数の教員による「社会連携・社会貢献に関する教育研究活動」は、教養部教員が長年にわたって研究してきた学問的蓄積を、広く一般社会に還元することを意図したものであり、その活動が長年にわたって継続できているという事実は、これらの社会的還元活動が一般社会に広く受け入れられ、望まれ続けている、という成果があることを明示している。教養部というひとつの組織がこうした多種多様な社会的活動を継続して展開できている理由は、前述の如く、本学教養部に多様な分野の教員が多数在籍しているからであり、この点は、教養部・教養課程を廃止した他の多くの大学には見られない本学の重要な特長の一つでもある。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

9-12教養 英語学教員の個人HP 各種教育研究機関での講演・講義 <https://msasaki.agu.ac.jp/%e8%ac%9b%e6%bc%94-lectures/>

9-13教養 地理学教員の個人HP 各種教育研究機関での講演・講義 <https://hoshikusa.jpn.org/activity.html#koen>

9-14教養 生物学教員の個人HP 各種教育研究機関での講演・講義 <http://www.toothedplatypus.com/koen.html>

9-15教養 日本語学教員の個人HP 各種教育研究機関での講演・講義 <https://sites.google.com/site/hiroshinoda0503/profile>

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
③	多数の教養部教員による多種多様な「社会連携・社会貢献に関する教育研究活動」の具体的内容を、教養部という組織全体としては十分に把握しておらず、周知が不足していることもあって、その評価が十分にはなされていない。その結果、こうした個人的取り組みによる社会連携・社会貢献の成果が、教養部の他の教員に十分には共有されず、教養部の教育研究の全体的な向上という面での波及効果が不十分なものとなっている。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
③	「社会連携・社会貢献活動」を行っている教員から、その活動を紹介してもらう機会をつくるとともに、教養部FD委員会においてこうした社会的教育研究活動に関する紹介や総合的議論を積極的に進めることなどが考えられる。また、現在では研究に関わる内容が中心となっている『教養部紀要』において、随時、個々の教員の社会的教育研究活動を掲載して周知を図り、認識を共有して、他の教員の社会的教育研究活動向上の参考にしてもらう、という方法もあり得るかもしれない。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
9-16教養 教養部FD委員会資料
9-17教養 教養部会資料
9-18教養 『教養部紀要』

5. 「基準9」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A